

### ～避難施設の紹介（その2）～

#### 避難施設の備蓄品

ひなん施設だより第5号では避難施設の説明と利用開始までの流れを紹介しました。今回は避難施設に備蓄されている水・食糧や生活用品などを紹介します。更に、備蓄されている食料の量について考察します。

#### 避難施設と備蓄の倉庫について

東玉川学園・成瀬台地域の避難施設には成瀬台小学校と成瀬台中学校の2カ所が指定されています。各学校にはそれぞれ防災備蓄倉庫が2つ（名称：防災備蓄倉庫、防災備蓄倉庫2）と防災倉庫が1つ設置されています。

- ・防災備蓄倉庫には避難生活に必要な日用品の品々が、防災備蓄倉庫2には当面の食料や水が備蓄されています。
- ・防災倉庫には避難施設運営に必要な品などを中心に備蓄されています。

防災備蓄倉庫・防災倉庫内の備蓄品の一覧を裏面にて紹介します。

#### 避難施設の地図と避難施設内の倉庫



#### 備蓄食料はどれくらいあるか？

ひなん施設だより第4号で、避難施設に来る人数は小・中学校併せて2,296人と紹介されています。

裏面の備蓄食料はアルファ化米が合計15,750食、ビスケットを合わせると23,430食になります。

アルファ化米だけを使った時の一人当たりの備蓄食料は約6.9食分（15,750÷2,296）となり、ビスケットを加えると約10.2食分（23,430÷2,296）となります。一日に3食を提供するとするなら、3日程度で備蓄食料は使い切ることになります。

4日目以降の食料については、外部からの調達が必要となります。東京都の災害備蓄倉庫が立川市内にあり、必要に応じて補充されることにはなっていますが、過去の地震発生時の例から発災時の食料調達は厳しい状況が想定されます。

#### ●避難施設の備蓄品について

上記のように避難施設にはおむね3日間分の食料しかありません。また生活用品なども十分ではなくすぐに不足すると想定されます。首都直下地震の際には、流通網が寸断され都の災害対策本部からの物資の配送は大変な混乱を来すと考えられます。避難施設での快適な日常生活をおくることは大変難しいです。

各ご家庭での備蓄は必須です。2ページの「在宅避難のための食料備蓄」を是非ご覧下さい。

地域の避難者数		避難者数1	避難者数2
避難施設	成瀬台小・中学校合計	1,268人	1,028人

避難者数は、町田市地域防災計画(2020年度修正版)より  
 避難者数1：建物被害(家屋の倒壊や焼失)による避難人口  
 避難者数2：ライフラインの支障などで食料や水などを求める人口(在宅避難者)

## 備蓄品一覧（2022年10月5日現在）

### 食糧・飲料水一覧（防災備蓄倉庫2に入っています）

品物	単位	数量		小・中学校 合計数量	備考
		成瀬台小学校	成瀬台中学校		
アルファ化米（白飯）	食	3,050	3,600	6,650	アルファ化米合計 15,750
アルファ化米（五目）	食	3,300	3,600	6,900	
アルファ化米（梅がゆ）	食	800	800	1,600	
アルファ化米（わかめ）	食	300	300	600	
ビスケット	食	3,660	4,020	7,680	ビスケットとあわせて合計 23,430
飲料水（500ml）	本	3,480	3,912	7,392	
粉ミルク	缶	24	24	48	
粉ミルク（アレルギー対応）	缶	2	2	4	

食糧・飲料水のほか、倉庫には避難施設で必要な生活用品や資器材が保管されており、その一部を紹介します。

#### 子ども用品・衛生用品

哺乳瓶、紙おむつ(新生児用・こども用)、紙おむつ(大人用)、トイレットペーパー、生理用品、口腔ケア用品など

#### 避難施設での生活用品（貸出用）

毛布、ブランケット、エアマット、床敷マット、炊飯袋、飲料水袋、屋内用テントなど

#### その他の用品

仮設トイレ、簡易トイレ、マンホールトイレセット、応急給水セット、  
発電機、投光器、バルーン投光器(発電機付)、ランタン、携帯電話充電器、携帯ラジオ、  
組み立て式担架、リヤカー、レスキューシート、防水シート、ガソリン缶、エンジンオイルなど

### 《在宅避難のための食料備蓄》

食料品は、食品ロス防止の関係で流通在庫が少なく、災害が発生するとすぐに市場からなくなります。

首都直下地震では、電気・ガス・上下水道だけでなく道路や交通機関、通信なども被害を受けます。流通は、道路や交通機関、通信が被害を受けるとストップしてしまいます。また、流通の主役を担うトラック輸送では、輸送を担うトラックやトラック運転手自身も被災します。人口が集中する首都圏においては、道路の復旧とともに流通の早期復旧が課題となっています。

#### 【町田市の食料備蓄】

町田市は、東京都が作成した首都直下地震の被害予想をもとに避難者のために3日間分の食料を避難施設などに備蓄しています。

#### 【食料不足は確実に発生】

町田市は在宅避難者の食料不足に対応するために1ページの「避難者数2」に示すように、この地域の人口約11,000人に対して、1,028人分の食料を備蓄しています（1,028人×9食の9,252食分）。

2020年度に東玉川学園・成瀬台地域で行った「大震災に備えるためのアンケート」で食料備蓄が3日間に満たないと回答した世帯が50%以上ありました（内訳は、備蓄なし（9食不足）が約12%、1日分（6食不足）が約25%、2日分（3食不足）が約14%）。この内容をこの地域の人口に当てはめると、3日間に限っても、在宅避難者の食料として約3万食分の食料が不足しています。従って、町田市の備蓄で補っても、この地域では、約2万食以上もの食料が不足することになります。4日目以降は、さらに多くの食料不足が生じます。

#### 【地域住民としての対応策】

私たちの取るべき対応策は、とにかく食料を備蓄することです。備蓄量は最低3日分と言われていますが、大地震にそなえるためには、少なくとも1週間分は必要です。歩き回って食料を調達することが難しい高齢世帯などは2週間分、できれば1ヶ月分を備蓄することをお勧めします。

#### 【参考：米のローリングストックについて】

1か月分の米は、平均的な大人1食分の米：75gで計算すると約7Kgとなります。

1人暮らしなら2.5Kg入りの袋を3袋常時ストックします。2人暮らしなら5Kg入りの袋を2袋常時ストックします。

次号以降で、避難施設の住環境、日々の生活とそのルール、衛生面（トイレの利用、清掃、ごみ出し）などについて順次紹介します。

お知りになりたいことや疑問・質問は [info-tamanaru-hinan@jcom.zaq.ne.jp](mailto:info-tamanaru-hinan@jcom.zaq.ne.jp) までお寄せください。